


いのち
いのち
私の信仰



单元
3



アッラー、人間、 そして世界のつながり

1. アッラーと創造
2. 創造の観点から見た人間の立場
3. 人間とアッラーとの結びつき
4. 創造の観点から見た世界
5. 人間とこの世界のつながりにおける人間の責任



単元について

この単元では、

- 世界の創造主であるアッラーと人間、そして世界との関係について述べられています。
- アッラーの創造の重要性、
- 創造の観点からの人間の立場について説明されています。
- 創造主、被造物の関係の中で、アッラーとの結びつきを示し、それをどのように維持すべきかについて述べられています。
- 人間とアッラーとの結びつきの手段であるドゥアー、イバーダ（崇拜行為）、そして善行について言及されています。
- これらを通して人間とアッラーとの結びつきがどのように強められるか指摘されています。
- 創造の観点から、世界の特質について触れた後、人間と世界のつながりにおける人間の責任と務めが示されています。

学習目標

この単元を終えたときには、次のような目標に到達することができます。

1. アッラーの創造の意図を述べる。
2. アッラーがすべてを創造されたことに関するクルアーンの言葉に言及する。
3. 創造の観点からの人間の立場について言及する。
4. 人がアッラーと結びつきを持つことの重要性と効用について説明する。
5. 人がどのようにアッラーと結びつきを持てるかについて説明する。
6. ドゥアーによってアッラーにどのように近くなれるかについて説明する。
7. イバーダと善行が、アッラーとの結びつきを持つための手段の一つであること理由を説明する。
8. イバーダと善行によってどのようにアッラーとの結びつきを得るか説明する。
9. イバーダと善行によってアッラーとの結びつきを得ることを認識する。
10. 常にアッラーと共にいるという意識を大切にす。
11. 世界がどのように創造されたかを、クルアーンを通して説明する。
12. 世界がなぜ創造されたかを説明する。
13. 人間と世界のつながりにおける人間の責任の重要性を説明する。
14. 人間と世界のつながりにおける人間の責任の例を示す。

学習時には

1. 単元の冒頭に掲げられた目標に到達できているかどうかを確認しましょう。到達できていない項目を再び読んでみましょう。
2. 単元の中で取り上げられている研究、観察は必ず実行してください

1

アッラーと創造



創造するとは、何かを無から存在させることです。アッラーはすべてのものの創造主であります。目に見えるものも見えないものも、すべてアッラーが創造されたのです。



「われは天と地、そしてその間にある凡てのものを、只真理に基いて創造した」(アル・ヒジュル章第85節)

アッラーの創造は、それがもたらしたものであるという点で比類すべきものはなく、並ぶものがない存在です。アッラーはすべてを、それ以前の何の模範もなく、無から創造されたのです。



「かれは天と地の創造者であられる」(家畜章第101節)

アッラーはすべてを無から創造された崇高なる導きの主です。創造され、生かされる存在はただアッラーのみなのです。



「それがアッラー、あなたがたの主である。かれの外に神はないのである。凡てのものの創造者である。だからかれに仕えなさい。かれは凡てのことを管理なされる」(家畜章第102節)

すべてを創造されたアッラーは、それらにある基準や均衡のもとに創造されました。

「本当にわれは凡ての事物を、きちんと計って創造した」(月章第49節)。「(かれは)一層一層に、7天を創られる御方。慈悲あまねく御方の創造には、少しの不調和もないことを見るであろう。それで改めて観察しなさい。あなたは何か裂け目を見るのか。それで今一度、目を上げて見るがいい。あなたの視線は、(何の欠陥も捜し出せず)只ぼんやりしてもとに戻るだけである」(大権章第3-4節)

アッラーはすべてのものを、ある秩序にもとづいて創造されたのです。

私たちはすべてを創造されたアッラーに、感謝しなければなりません。

「至高の御方、あなたの主の御名を讃えなさい。かれは創造し、整え調和させる御方、またかれは、法を定めて導き、牧野を現わされる御方」(至高章第1-4節)



「(かれは)真理によって天と地を創造なされ、あなたがたを形作って美しい姿になされた。またかれの御許に帰り所はあるのである」(騙し合い章第3節)



話し合ってみましょう

この世界には均衡の取れていないことがあるでしょうか。話し合ってみましょう。

2

創造の観点から見た人間の立場



アッラーは地上と、すべての生命あるもの、そして生命を持たないものすべてを人間のために創造されました。そして人間が生きるのに適した環境を用意された後で、人間を創造されました。人間は最も美しい形で創造されたのです。

「本当にわれは、人間を最も美しい姿に創った」（無花果章第4節）

クルアーンでは、人間が土から創られ、多くの段階を経て現在の状態とされたことが記されています。

「かれが、泥からあなたを創られたのは、かれの印の一つである」（ビザンチン章第20節）

様々な段階を経て創造された人間に、アッラーは生命を与えられました。

「それからかれ（人間）を均整にし、かれの聖霊を吹き込まれ、またあなたがたのために聴覚と視覚と心を授けられた御方。あなたがたはほとんど感謝もしない」（アッ・サジダ章第9節）



考えてみましょう

クルアーンで人間の創造の諸段階を説明している章句を見つけて読みましょう。

クルアーンにおける人間の創造の意図

- 「またわれが天使たちに、『あなたがた、アーダムにサジダしなさい。』と言った時を思い起せ」（雌牛章第34節）
- 最も美しい形で創造された人間は、アッラーのご命令や禁止事項に従うことで天使たちよりも優れた状態に至ることができ、従わなければずっと低い状態に陥ることもあります。

「本当にわれは、人間を最も美しい姿に創った。それからわれは、かれを最も低く下げた。

信仰して善行に勤しむ者は別である。かれらに対しては果てしない報奨があらう」（無花果章第4-6節）



- 人間はその天性により、非常に崇高な存在です。人間の創造の意図は、次のように示されています。「ジンと人間を創ったのはわれに仕えさせるため」（撒き散らす者章第56節）
- アッラーに仕えるために創造された人間は、善にも悪にも傾く存在です。しかし人間はその知恵と意志を用いて、創造の意図に適った役割を受け持つことができるのです。「われはアーダムの子孫を重んじて海陸にかれらを運び、また種々の良い（暮らし向きのための）ものを支給し、またわれが創造した多くの優れたものの上に、かれらを優越させたのである」（夜の旅章第70節）

3

人間とアッラーとの結びつき



アッラーは人間を創造され、その後そのまま放っておかれはしませんでした、アッラーはあらゆる瞬間に非常に近くられます。しかし一部の人は、アッラーとの結びつきを断とうとし、あるいはアッラーとの結びつきに気がついていません。人がアッラーの近くにあるとすればするほど、アッラーもその人に近づいてくださるのです。



預言者ムハンマドは次のように仰せられました。「アッラーは言われた。わがしもべが、私についてどのように考えているのであれ、私はその通りなのだ。しもべが私を思うとき、私はしもべと共にある。彼が私に思いを寄せるとき、私も彼に思いを寄せる。彼が私を、信者の集団の中にいて思い起こすのであれば、私も彼をより素晴らしい集団の中で思い起こす。彼が私に手の長さほどまで近づけば、私は彼にひじの長さほどまで近づく。彼が私にひじの長さほどまで近づけば、私は彼に腕の長さほどまで近づく。彼が私に歩いてくれば、私は彼に走っていく」(ブハーリー、タウヒード50, VIII/212; ムスリム、ズィクル2, (2675), III/2061)



考えてみましょう

なぜ人間はアッラーにしもべとして仕え、アッラーへと向かいたいのか説明してみましょう。



考えてみましょう

- 人間はアッラーとの結びつきを、意識して維持する責任を持っています。
- 人間とアッラーとの結びつきは様々な方法で行われます。ドゥアー、イバーダ、そして善行などです。

ドゥアー (祈願)

アッラーと結びつき、それを維持し強めるための方法の一つがドゥアーです。ドゥアーによってアッラーに結びついていることを表明し、アッラーへの信仰や愛情を強めます。アッラーにどのような言葉で、どういう形でドゥアーをしたとしても、アッラーはそれを聞かれ、受け入れられます。

「われのしもべたちが、われに就いてあなたに問う時、(言え)われは本当に(しもべたちの)近くにいる。かれがわれに祈る時はその嘆願の祈りに答える。それでわれ(の呼びかけ)に答えさせ、われを信仰させなさい、恐らくかれらは正しく導かれるであろう」(雌牛章第186節)



話し合ってみましょう

ドゥアーはどのように行うべきでしょうか。
ドゥアーをする際には何を言うべきでしょうか。

ドゥアー
ドゥアー、あなたに庇護を求める時間
世界から遠ざかり、翼を広げて飛び立つ
すべてにその力が及ぶアッラーに、
心のままに願い、求める

ハジェル・アクン



話し合ってみましょう

上記の詩を参考に、

- ドゥアーをする際にはどのような思いですか。
- ドゥアーによってアッラーから何を求めますか。

ドゥアーと人間

- 私たちはドゥアーによって、思いや考えをアッラーと分かち合い、望んでいることをアッラーに伝えます。アッラーに、心から、誠実な気持ちで語るのです。
- ドゥアーによってアッラーに何かを求める一方で、求めていることが実現するように、自らできる限りの努力をすることも必要です。
- 時には、ドゥアーしたことが実現しない場合もあります。その場合は、焦らずに耐え忍ばなければなりません。

44

なぜドゥアーをするのか

- ドゥアーは、悲しいときにもしますが、幸せなときにもすることができます。
- ドゥアーでは、私たち自身、周りの人々、そしてすべての人々のために良きことを願います。
- 喜んでいるときに行うドゥアーでは、その喜びを与えて下さったアッラーに感謝します。これによって私たちのアッラーへの愛情、そしてアッラーの私たちへの愛情が深まるのです。
- 預言者ムハンマドは次のようにドゥアーされました。



私に健康な体を与えられ、私にも、ご自身を思い起こす機会を与えられたアッラーに感謝いたします。

- 悲しいときにドゥアーすることによって、アッラーのご援助と精神的な力を得ます。このようにして困難を乗り越える忍耐力を養っていくのです。



考えてみましょう

- 嬉しいときに行うドゥアーを友達と分かち合しましょう。
- 嬉しいときに行うドゥアーについて考えてみましょう。
- 悲しいときに行うドゥアーを友達と分かち合しましょう。
- 悲しいときに行うドゥアーについて考えてみましょう。



「主よ、あなたの御許から慈悲を与えられ、わたしたちの事態に正しい道を御授け下さい。」（洞窟章第10節）

ドゥアーは、いつでもどこでも行うことができます。朝起きたとき、夜寝るとき、食前食後、病気のとき、快復したとき、何かの仕事を始めるとき、それを完成したときなどにもドゥアーを行います。



考えてみましょう

- ドゥアーで、あなたは誰のために何を求めますか。
- 日々のドゥアーには何がありますか。
- クルアーンと預言者ムハンマドの生涯から、ドゥアーを見つけましょう。

イバーダ（崇拜行為）：アッラーとの結びつき

アッラーとの結びつきは、イバーダによっても維持されます。アッラーは私たちに、イバーダを行うことを求めておられます。



- 「わたしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う」（開端章第5節）
- 「あなたがた信仰する者よ。ルクウ（立礼）しサジダ（平伏礼）して、あなたがたの主になさい。そして善行に勤しめ。必ずあなたがたは成功するであろう」（巡礼章第77節）

アッラーにしもべとして仕えること

アッラーにしもべとして仕えると意識して行われるすべてのことがイバーダとなります。アッラーのご満悦と愛情を得る目的でそれらがなされたからです。これは、イバーダの広い意味です。さらに、崇高なる書物であるクルアーンと預言者ムハンマドのハディースのいくつかの項目で、私たちが行わねばならないいくつかのことが述べられています。ハディースでは主なイバーダについて次のように知らされているのです。



「イスラームは五つのものの上に築かれている。ムハンマドがアッラーの使徒であることを認めること、礼拝を行うこと、ザカートを支払うこと、巡礼に行くこと、断食をすることである」（ティルミズィー、信仰3）

- イバーダは、アッラーにしもべとして仕えること、敬意を示すこと、命令された事柄を信じることといった目的のために行われます。多くの恵みを与えられたアッラーへの感謝を、私たちはイバーダによって表明しているのです。



考えてみましょう

- ハディースで示されているイバーダとは何でしょうか。他にどのようなイバーダがあるでしょうか。
 - イバーダは、アッラーとの結びつきにおいてどのような効用があるでしょうか。
 - アッラーに感謝することは、アッラーとの結びつきを強める上でどのような効用があるでしょうか。
- 私たちはイバーダを行うことで、アッラーに対する務めを果たし、幸福で安らいだ状態となります。

善行

- アッラーのご満悦とお喜びを得る目的で行われ、何らかの価値がある良い行いを善行と呼びます。
- イスラームが命じ、また奨励しているこれらの行為は、信仰に適合しており、また信仰が示す指針に従ったものであるゆえ、適応している、適っている、価値のあるという意味の単語が使われています。
- 善行の真髄はイバーダです。イバーダが善行であるように、人に笑顔を見せること、挨拶すること、助けを必要としている人を助けることといった行いや態度もまたイバーダです。
- 善行は非常に多彩です。それらのうちいくつかを、預言者ムハンマドのハディースから見てみましょう。



- 両親への善行（ムスリム、信仰36）
- 兄弟に笑顔を向けること（ティルミズイー、ビッル36）
- 道を行く人の邪魔になるものを取り除くこと（ムスリム、信仰12）



- 迷っている人に道を示すこと（ティルミズイー、ビッル36）



考えてみましょう

- すべての行いでアッラーの愛情を得ることを目的とする人のアッラーとの結びつきはなぜ強いものとなるのでしょうか。
- 崇高なるアッラーは、良い価値のあることを行い、ご自身とのつながりを維持する人に、報奨を与えるられることを明らかにされています。



「信仰して善行に勤しんだ者には、川が下を流れる楽園があろう。これは偉大な幸福の成就である」（星座章第11節）

- 私たちは善行をアッラーのご満悦を得る目的で行います。
 - アッラーのご満悦を求めるほどに、アッラーとの結びつきは強まります。アッラーはご自身との結びつきを維持し、強める人に多くの報奨を与えられます。
- 預言者ムハンマドは次のように語られています。



「善行は少なくとも10倍で記録される。そしてそれは70万倍にまで増える」（イブン・マージャ、徳58）

「善行のうちアッラーが好まれるものは、わずかであったとしても継続するものである」（ブハーリー、信仰321）



考えてみましょう

継続して行われる事柄は、人間とアッラーとの結びつきを生き生きと保つうえでどのように助けとなりますか。

4

創造の観点から見た世界



被造物と世界の均衡

この世界にあるものはどれ一つとして、それ自体が勝手に存在したのではありません。すべての創造主であるアッラーが世界を創造されたのです。アッラーは諸世界を導くお方です。アッラーは世界を均衡のうちに創造されました。



「本当に天と地の創造、また夜と昼の交替の中には、思慮ある者への印がある」（イムラーン章第190節）

「本当に天と地の創造、昼夜の交替、人を益するものを運んで海原をゆく船の中に、またアッラーが天から降らせて死んだ大地を甦らせ、生きとし生けるものを地上に広く散らばせる雨の中に、また風向きの変換、果ては天地の間にあつて奉仕する雲の中に、理解ある者への（アッラーの）印がある」（雌牛章第164節）

「太陽と月は、一つの計算に従い（運行し）」（慈悲あまねくお方章第5節）

詩

匠のみわざ

目を開けて見てみなさい

この天空の美しさ

天の均衡を見てみなさい

匠の手がそこに触れたのだ

水もない砂漠に

雨が降る大地に

緑に芽吹く木々に

匠の手が触れたのだ

光を放つ魚たちに

地に落ちる葉にも

匠の手が触れたのだ

イルファン・ジョシュクン



考えてみましょう

上記の詩では何が語られているでしょうか。

48

想像の意図

創造されたすべてのものには、創造の意図と英知があります。



- 天と地を正しく創造されたのはアッラーです。

「われは、真理と期限を定めずには、天と地、そしてその間の凡てのものを、創造しなかった。だが信仰しない者は、かれらに警告されたことから背き去る」
(砂丘章第3節)

- 「アッラーは諸天と大地を真理によって創造なされ

た。本当にその中には信仰する者への印がある」 (蜘蛛章第44節)

- アッラーはこの世界を、来世での生を獲得するための試練の場として創造されました。世界のすべては人間に奉仕し助けとなるために創造されたのです。



小論文

選ばれた惑星

地球の創造において意味のないことは何もないように、その大きさ、昼と夜、あるいは宇宙空間での位置もまた偶然ではないのです。

もし地球の公転が今のものと異なるものであれば夜がもっと長かったかもしれません。そして地上はもっと寒かったでしょう。もし昼間がもっと長かったとすれば、地球はもっと暑かったでしょう。地球の公転がもっとゆっくりだった場合、昼と夜の温度差が1000℃以上の水星のようになっていたことでしょう。

地球がもっと小さかったとすれば、引力はもっと弱く、大気は容易に宇宙空間に逃げてしまっていたでしょう。これは想像するのも恐ろしい、大気のない地球を意味しているのです。地球がもっと大きかった場合、引力がもっと強くなるため、有毒な気体が大気圏に残り、息をすることすら困難となっていたことでしょう。

空気がなければどうなっていたでしょうか。地球も空気のない月と同様、昼間は120℃という高温に、夜はマイナス150℃という凍てつく低温になっていたことでしょう。空気がなければ、二酸化炭素や水蒸気も存在しなかったでしょう。日中、太陽光線の一部を取り込み、宇宙空間に戻すことのないこれらの気体がなければ、それらが担っている役割が行われなくなることを意味します。つまりそのとき地球は、日中は太陽光線から守られることなく、夜間は日中の熱を保っていることができなくなるのです。

次に、太陽が地球により近かった場合と遠かった場合を考えてみましょう。もし太陽エネルギーが現在よりも10パーセント少なく地球に到達していたとしたら、地上は何メートルもの氷河に覆われていたことでしょう。逆に太陽エネルギーがわずかでも強かった場合には、すべての生物は焼け死ぬでしょう。ところで地軸が20.27度傾いていなければどうなっていたでしょうか。季節はこの傾きによって生まれているのであり、この角度に何らかの相違があれば、それぞれの季節の間に過度な温度差が生じていたことでしょう。これは、夏は暑すぎ、冬は寒すぎて地上で生きていけないということを意味しています。しかし地球は、火星のように低温で凍てつくことも、金星のように高温で焼かれることもありません。近くの隣人である月でさえ、隕石の雨や有害な光線にさらされているのに、地球は温暖で心地よい環境を保っているのです。たいへん細やかな連鎖や均衡の上に築かれているこの地球で、生き物たちはそれぞれの役割を過不足なく果たしているのです。地球は止まることなく回転しています。太陽は毎日登ります。大地はいつでも私たちの足の下にあります。欠乏して初めてその重要性に気づく空気は、決して私たちを見放すことはありません。地球は人間にとって、どんなときでも特別な惑星であるということを実感させる、生きるのに最適な心地よい住処なのです。

話し合ってみましょう

地球の創造における細やかさとは何でしょうか。



宇宙

アッラーが創造されたすべてのものは、人間のために創造されました。



「かれこそは、あなたがたのために、地上の凡てのものを創られた方であり、更に天の創造に向かい、7つの天を完成された御方。またかれは凡てのことを熟知される」（雌牛章第29節）

「あなたがたは思い起さないのか。アッラーは天にあり地にある凡てのものを、あなたがたの用のために供させ、また外面と内面の恩恵を果されたではないか。だが人びとの中には、知識も導きもなく、また光明の啓典もなく、アッラーに就いて論議する者がある」（ルクマーン章第20節）

「またかれは、天にあり地にある凡のものを、（賜物として）あなたがたの用に服させられる。本当にこの中には、反省する者への印がある」（跪く時章第13節）



話し合ってみましょう

アッラーが人間に与えられた恵みとはどのようなものでしょうか。

上記のクルアーンの言葉をもとに考えるとき、考える人々にとっての根拠とはどのようなものでしょうか。

50

5

人間とこの世界のつながりにおける人間の責任

この世界と、そこに存在するすべてのものは、人間に奉仕するために与えられたものです。しかし人間は、この世界やすべての被造物に対して責任を負っています。アッラーが人間に与えてくださった恵みを最も効果的に用い、維持する責任を負っているのです。「本当にわれは、諸天と大地と山々に信託を申しつけた。だがそれらはそれを、担うことを辞退し、且つそれに就いて恐れた。人間はそれを担った。本当に（人間は）不義でありかつ無知である」（部族連合章第72節）



考えてみましょう

人が負う責任とはどのようなものでしょうか。

アッラーのしもべであること

崇高なるアッラーのしもべとして創造された人間は、生命を持っているか持っていないかにかかわらず、あらゆる被造物との関わりにおいて、しもべであるという認識を維持していなければなりません。責任意識を持って振る舞い、自らに与えられた恵みを最善の方法で、そして最も効果的な形で用いるべきなのです。人間の責任の一つは、この地上とそこに存在するすべてのことについて学び、アッラーの言葉を理解し、それについて考えることです。人間はこれらについてよく考える責任を負っているのです。



「本当に天と地の創造、昼夜の交替、人を益するものを運んで海原をゆく船の中に、またアッラーが天から降らせて死んだ大地を甦らせ、生きとし生けるものを地上に広く散らばせる雨の中に、また風向きの変換、果ては天地の間であって奉仕する雲の中に、理解ある者への（アッラーの）印がある」（雌牛章第164節）



単元のまとめ

アッラーはすべてのものの創造主であります。目に見えるものも見えないものも、すべてアッラーが創造されたのです。アッラーの創造は、それがもたらしたものであるという点で比類するものはなく、並ぶものがない存在です。アッラーはすべてを、それ以前の何らかの模範などなく無から創造されたのです。

アッラーは地上と、すべての生命体、そして生命を持たないものも人間のために創造されました。そして人間が生きるのに適した環境を用意された後で、人間を創造されました。人間は最も美しい形で創造されたのです。アッラーに仕えるために創造された人間は、善にも悪にも傾きます。しかし人間は知恵と意志を用いて、創造の意図に適った形で生きることができるのです。

アッラーは人間を創造され、そのまま放置されることはありませんでした、アッラーはいつも人間のたいへん近くにあらわれます。人間はアッラーとの結びつきを、意識して維持していく責任を負っています。人間とアッラーとの結びつきは様々な方法で行われます。それはドゥアー、イバーダ、そして善行などです。

アッラーと結びつきを持ち、それを維持し、強めるための方法の一つがドゥアーです。ドゥアーによってアッラーに結びついていることを表明し、アッラーへの信仰や愛情を強めます。アッラーにどのような言葉で、どういう形でドゥアーをしたとしても、アッラーはそれをお聞きになり受け入れられます。ドゥアーは嬉しいときにも、悲しいときにも行うことができます。私たちはアッラーとの結びつきをイバーダや善行によって維持します。こうしてアッラーのご満悦とお喜びを得るのです。

すべての創造主であるアッラーが世界を創造されたのです。アッラーはこの世界を導くお方です。アッラーはこの世界を、来世での生を獲得させるために創造されました。

この世界は人間に奉仕するために与えられたものです。人間は、この世界、そしてすべての被造物に対して責任を負っています。アッラーが自らに与えてくださった恵みを最も効果的に使い、それらを維持する責任を負っているのです。人間は、生命を持っているか持っていないかにかかわらず、あらゆる被造物との関わりにおいて、アッラーのしもべであるという認識を持っていなければなりません。



単元の復習



1. この世界と人間はどのように創造されましたか。調べてみてください。
2. アッラーとの結びつきを維持するためにはどのようなことをするべきでしょうか。考えてみてください。
3. 私たちはどのようなときにドゥアーする必要性を感じますか。それはなぜでしょうか。
4. イバーダを行うことは、アッラーとの結びつきを強める上でどのような効果があるでしょうか。説明してください。
5. この世界はなぜ創造されたのでしょうか。説明してください。
6. 人間とこの世界のつながりにおける人間の責任とは何でしょうか。例を挙げてください。



確認のための問題



1. 「それがアッラー、あなたがたの主である。かれの外に神はないのである」(家畜章第102節) という章句で強調されている基本的な考えとは下記の中でどの項目でしょうか。
 - A) アッラーは唯一であられること
 - B) アッラーの他に神はないこと
 - C) すべてをアッラーが創造されたこと
 - D) 人間は自分の行いに責任を持つこと
 - E) 人間には選ぶ自由があること

2. 下記の項目の中でどれがアッラーとの結びつきを築く方法ではないでしょうか。
 - A) ドゥアーすること
 - B) 礼拝をすること
 - C) 働くこと
 - D) クルアーンを読むこと
 - E) 断食をすること

3. すべてのもがそれのために創造された被造物とは下記の項目の中でどれでしょうか。
 - A) 天使
 - B) 人間
 - C) ジン
 - D) シャイターン
 - E) 預言者

4. 下記の項目の中でどれが人間の環境に対する責任ではないでしょうか。
 - A) 生命を持つものを守ること
 - B) アッラーの言葉を理解すること
 - C) 自らに与えられた恵みを最良の形で用いること
 - D) 環境を汚染すること
 - E) 宇宙のバランスを壊さないこと

5. 下記の項目の中でどれが善行ではないでしょうか。
 - A) 両親によく振る舞うこと
 - B) 兄弟に笑顔を見せること
 - C) 学校やモスクを建設すること
 - D) 道に迷った身寄りのない人に道を教えること
 - E) 人の善行を話すこと